

# 古典芸能研究センターからのお知らせ



## 公益財団法人 香雪美術館 企画展

### 「四世梅若実襲名記念 幽玄の世界への誘い<sup>いざな</sup> 梅若六郎家所蔵の能面と能装束」協力

香雪美術館（神戸市東灘区御影郡家）で、平成31年2月26日（火）から令和元年5月6日（月）まで開催された企画展「四世梅若実襲名記念 幽玄の世界への誘い<sup>いざな</sup> 梅若六郎家所蔵の能面と能装束」に、古典芸能研究センター所蔵資料13点を出品して協力しました。この展覧会は、観世流シテ方楽師梅若六郎玄祥氏の四世梅若実襲名を記念して企画されたものです。センター所蔵の梅若流謡本12冊（内2冊は江崎家旧蔵資料）と、初世梅若実の演能の様子を明治の人気浮世絵師 楊洲周延が描いた「青山仮皇居御能ノ図」（伊藤正義文庫）が、梅若六郎家に伝わる貴重な面や装束と共に展示され、唯一の文献資料コーナーとあって、見学者の興味を一層引いていました。



上左 香雪美術館正門  
上右 文献資料コーナーから見た展示会場の様子  
下 楊洲周延画「青山仮皇居御能ノ図」（伊藤正義文庫）



## 展示 「古典芸能と番組・番付 一宣伝・案内・見立」

平成31年3月11日（月）～4月25日（木）に、展示「古典芸能と番組・番付 一宣伝・案内・見立」を開催しました。この展示では、能・狂言・歌舞伎・人形浄瑠璃などの上演の際に、宣伝・案内のために作られた「番組」（能・狂言）や「番付」（歌舞伎・人形浄瑠璃）について、古典芸能研究センター所蔵資料を使ってわかりやすく紹介するとともに、そこから見えてくる興行や催しの特色についても解説しました。遊び心に富んだパロディとして人々に親しまれてきた見立番付も併せて展示し、好事家の興味を引いたようでした。なお、古典芸能研究センター所蔵の能番組はホームページ内「古典芸能研究センター蔵 能番組データベース」で公開しています。

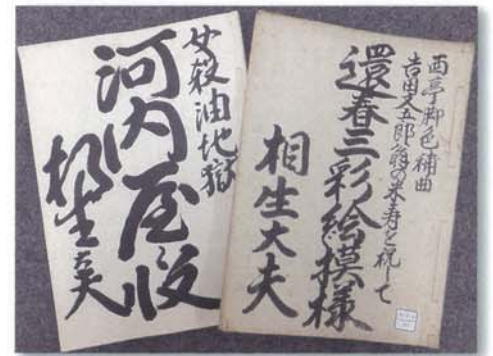
URL : <https://noh-bangumi.yg.kobe-wu.ac.jp/>



## 資料公開 「江崎家旧蔵資料」 「四世竹本相生太夫旧蔵資料」

古典芸能研究センターでは、所蔵する貴重なコレクションを、整理を終えたものから順次公開しています。この度、平成27年度に姫路在住のワキ方能楽師 江崎欽次朗氏より受贈した「江崎家旧蔵資料」（能楽関係資料）と、平成30年度にご遺族より受贈した「四世竹本相生太夫旧蔵資料」（浄瑠璃関係資料）をホームページ内「電子版和書目録」で公開しました。

URL : <https://wasyo.yg.kobe-wu.ac.jp/>



「四世竹本相生太夫旧蔵資料」より床本二種

令和元年秋  
開催決定!

## 令和元年度国立能楽堂特別展 「神戸女子大学古典芸能研究センター・ 神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」

- 会期** 令和元年11月6日（水）～令和2年1月17日（金）※月曜、年末・年始休業
- 会場** 国立能楽堂 一階資料展示室（東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1）
- 主催** 独立行政法人 日本芸術文化振興会

古典芸能研究センターと本学図書館所蔵の能狂言絵関係コレクションが、今秋、国立能楽堂でおよそ2ヶ月にわたって展示されることになりました。古典芸能研究センターが昨年度に刊行した『絵入謡本と能狂言絵』（神戸女子大学古典芸能研究センター研究資料集2）と、その刊行にあわせて開催した企画展「能・狂言絵の世界」が高評を博し、本学所蔵の貴重な能楽関係資料を東京で初公開します。詳細が決まりましたら古典芸能研究センターホームページにてお知らせします。



平成21年度に行吉学園創立70周年記念特別講演会「平家の魅力を神戸から」で記念講演をしていただいたドナルド・キーン先生が、平成31年2月24日にご逝去なさいました。謹んでお悔やみを申し上げます。



## 令和元年度 科学研究費助成事業採択状況

令和元年度の科学研究費助成事業について、本学園の採択件数は大学40件（継続27件、新規13件）、短期大学1件（継続1件）でした。科学研究費助成事業は、人文・社会科学から自然科学まですべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」を格段に発展させることを目的とする「競争的資金」であり、ピアレビューにより、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです。

令和元年6月1日現在

研究種目	研究代表者	研究課題名
基盤研究 (B)	家政学部・教授 砂本 文彦	日本統治期朝鮮の貸家と都市構造に関する研究
基盤研究 (C)	家政学部・准教授 木村 万里子	いんげん豆類に含まれる高機能性オリゴ糖の探索とその構造解析
基盤研究 (C)	看護学部・教授 下敷領 須美子	短期母乳栄養を選択したHTLV-1陽性妊産婦への訪問助産師による継続支援の開発
基盤研究 (C)	看護学部・教授 藤田 冬子	介護者のためのエンハンスメント・プログラム活用による在宅療養支援
基盤研究 (C)	文学部・准教授 久野 和子	「公共空間」としての図書館の先進的研究
基盤研究 (C)	家政学部・教授 置村 康彦	分岐鎖アミノ酸と成長ホルモンによる筋委縮抑制作用の分子機構の解明
基盤研究 (C)	看護学部・准教授 丸山 有希	小中学校におけるけいれん発作対応に関する教育プログラム開発と効果の検証
基盤研究 (C)	文学部・教授 今井 修平	西播磨小藩・旗本領における領主支配と地域社会構造の歴史的研究
基盤研究 (C)	文学部・教授 大西 雅裕	母子家庭に関する貧困問題対策の実証的研究 -母子家庭支援策の構築を目指して-
基盤研究 (C)	看護学部・教授 中岡 亜希子	看護チーム力を向上させる看護師・看護補助者の協働モデルの考案
基盤研究 (C)	看護学部・准教授 藤原 由子	アトピー性皮膚炎患者が治癒するときの「身体性の変化」を支える方法の開発
基盤研究 (C)	看護学部・教授 内 正子	慢性疾患をもつ小児のためのクリニックにおける地域生活型看護ケアプログラムの開発
基盤研究 (C)	看護学部・准教授 笹谷 真由美	特別養護老人ホームにおける看護実践能力尺度の開発と検証
基盤研究 (C)	看護学部・講師 記村 聡子	看護師を対象とした地域連携研修デザインのためのアクションリサーチ
基盤研究 (C)	幼児教育学科・准教授 永井 久美子	保育職におけるバーンアウトの影響要因についての探索研究
基盤研究 (C)	文学部・教授 狩野 恭	アビダルマ以後における仏教的存在論と恒常的存在の存在論との論争の系統的研究
基盤研究 (C)	文学部・教授 森 尚也	サミュエル・ベケットにおけるモノダの運動：身体運動からイメージ運動、〈流動〉へ
基盤研究 (C)	文学部・准教授 岡嶋 裕剛	近代日本における漢字集合の字種・字体の変遷
基盤研究 (C)	文学部・准教授 鈴木 宏節	拓本精査と画像アーカイブ化による突厥碑文の歴史学的研究
基盤研究 (C)	家政学部・教授 後藤 昌弘	低温スチーミングによる野菜類の加熱調理条件と食味および栄養成分の関連について
基盤研究 (C)	家政学部・教授 梶木 典子	移動型遊び場（モバイル・プレイ）による子どもの外遊びの推進と都市公園の利活用
基盤研究 (C)	看護学部・教授 洪 愛子	専門看護師と認定看護師が提供する看護サービスのアウトカム評価指標開発
基盤研究 (C)	看護学部・准教授 田村 康子	モロッコにおける産痛緩和ケアに関する助産師基礎教育モデルの開発
基盤研究 (C)	文学部・准教授 南 佑亮	属性叙述のthere/have交替に関する記述的・理論的研究
基盤研究 (C)	健康福祉学部・教授 小笠原 慶彰	被占領期における方面委員・民生委員活動の実態についての研究
基盤研究 (C)	家政学部・教授 安藤 清一	野菜・果実類に存在する新規水溶性カロテノイドタンパク質複合体の探索と機能性解析
基盤研究 (C)	文学部・教授 小原 依子	リハビリテーション病院等における音楽療法の評価表マニュアル作成に関する実践的研究
基盤研究 (C)	健康福祉学部・教授 木村 大輔	マラリアにおける免疫記憶抑制 -IL-27依存的細胞死のメカニズム解明-
基盤研究 (C)	看護学部・助教 三苫 美和	がん相談支援センターへの相談内容の特徴抽出と構造化および経年推移の分析
基盤研究 (C)	看護学部・教授 東 ますみ	看護外来における行動変容が継続しない2型糖尿病患者に対する遠隔看護の有用性の検証
基盤研究 (C)	看護学部・教授 魚里 明子	地域で生活する健康な高齢者の足トラブルを改善するフットケアプログラムの開発
基盤研究 (C)	看護学部・教授 横内 光子	システムシミュレーションによる災害時病院患者避難原則の解明
若手研究 (B)	文学部・准教授 本田 隆裕	空範嚙・空演算子に対する英語前置詞と日本語格助詞の平行性
若手研究 (B)	健康福祉学部・准教授 川端(木下) 麗子	高齢外国籍住民の集住地域における「多文化共生型相互支援モデル」の構築
若手研究 (B)	看護学部・助教 奥井 早月	2型糖尿病患者への治療中断防止の支援モデルの開発
若手研究 (B)	看護学部・助教 荒金 英里子	中年期におけるひきこもり当事者の健康支援のあり方に関する研究
若手研究	看護学部・講師 西原 詩子	2型糖尿病患者に対する歯周病ケアプログラムの効果評価
若手研究	健康福祉学部・准教授 曾田 里美	児童養護施設におけるライフストーリーワーク実践モデルの開発的研究
若手研究	看護学部・助教 藤井 誠	がんサバイバーのライフコースに関する検討
若手研究	看護学部・助教 問本 弘美	DVのある家庭で生活する母子への妊娠中から産後の切れ目ない支援プログラムの開発
若手研究	看護学部・講師 牛越 幸子	妊娠後期の就労妊婦に対する睡眠の質を促進する看護介入プログラムの検証

※研究種目のゴシック文字は今年度新規採択(13件)



## 中高年知的障害者と 高齢の親の同居家族への相談支援 障害分野と高齢分野の有機的連携

研究期間：平成 28 ～ 30 年度

研究種目：基盤研究（C）

神戸女子大学 健康福祉学部 社会福祉学科 教授 植戸 貴子



今日の超高齢社会においては知的障害者も高齢化が進み、中年期・高齢期を迎えた知的障害者の生活ニーズや支援が注目されています。知的障害者は成人後も親と同居を続ける人が多く、親と子の高齢化によって、親によるケアを巡る課題も生じています。高齢の親が障害のある子をケアする「老障介護」、高齢の親を障害のある子がケアする「障老介護」、家族の経済的困窮や孤立など、厳しい現状が報告されています。このような中、障害分野と高齢分野の専門職が協力・連携しながら、「親子を一体的に支援する」という視点が重要です。

本研究では、中高年知的障害者と高齢の親の同居家族に対して、障害分野と高齢分野で行われている相談支援（ソーシャルワーク）の現状と課題、特に両分野の連携の現状と課題を探りました。

平成28年度には障害者相談支援事業所の相談援助職を対象に、平成29年度には地域包括支援センター（高齢分野の相談機関）の相談援助職を対象に聞き取り調査を行い、平成30年度には聞き取り調査の結果を検証するために、障害者相談支援事業所と地域包括支援センターの相談援助職に対するアンケート調査を実施しました。

その結果、知的障害者本人は、加齢による衰え、親のケ

ア力低下によって生じる生活問題、ケアを受ける立場から親をケアする立場への転換を巡る問題などに直面していることが分かりました。高齢の親は、自身の健康問題や機能低下、子へのケアの行き詰まりや孤立を経験し、将来への不安を抱きつつも支援の受け入れに戸惑いを感じていました。また、障害者相談支援事業所では重度な知的障害者との関わりが多く、親子ともに障害や加齢に伴う機能低下などの問題が深刻であり、地域包括支援センターでは、自立度の高い知的障害者が多く、障害者手帳がなく福祉に繋がっていない人が多いことが浮き彫りになりました。さらに、障害分野では時間をかけてじっくり支援するという援助観を持っているのに対して、高齢分野では問題を迅速に解決しようという傾向が見られました。障害者や高齢者を理解するために必要な専門知識の違い、障害福祉と高齢福祉の法制度の壁なども、障害分野と高齢分野が協働する際の課題として指摘されていました。

今後は、障害分野と高齢分野の相談援助職が互いに学び合い、法制度の枠を超えて適切に役割分担・連携しながら、親子を一体的に支援する実践と仕組みづくりのための研究に取り組む予定です。



卒業論文指導でゼミ生と福祉に関する問題について話し合う植戸貴子教授



「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」の講義をする植戸貴子教授



## 大学院 看護学研究科 看護学専攻(博士前期課程・博士後期課程)開設

神戸女子大学は、平成31年4月から大学院看護学研究科看護学専攻を開設し、博士前期課程、博士後期課程を同時に設置しました。

看護学部看護学科を基礎とし、地域で活躍できる実践に裏打ちされた教育・研究者や高度専門職業人を育成することで社会に貢献することを目的としています。



看護学研究科の第一期生と東ますみ看護学研究科長(前列中央)

### 教育研究上の理念と目的

● **博士前期課程** 生命の尊厳への深い理解と実践科学としての看護の本質を探究する姿勢を育み、卓越した看護実践能力と研究能力の基盤を備えた看護職または、高度専門職業人として社会に貢献できる人材を育成する。

学 位：修士(看護学)  
入学定員：8名  
収容定員：16名

● **博士後期課程** 高い倫理観と高度な教育・研究能力を備え、研究活動を通して看護学の発展に寄与する看護系教育機関の教員・研究者または、保健医療福祉施設における実践者や管理者として、社会に貢献できる人材を育成する。

学 位：博士(看護学)  
入学定員：3名  
収容定員：9名

## 学位取得者 及び 学位論文《概要》

### 平成30年度 学位取得者 及び 学位論文概要

平成30年度は、神戸女子大学大学院文学研究科 英文学専攻に以下の1名から学位論文が提出され、平成31年3月16日に博士(英文学)の学位が授与されました。



論文博士 **湯谷 和女** (主査：丸橋 良雄教授)

論文題目 「ジェイン・オースティン—風刺作家としてのモラリスト」

論文は、王政復古期の喜劇の‘Comedy of manners’の手法を取り入れて小説を書いたJane Austenを「風刺作家としてのmoralist」と捉え、‘a master of her craft’ と称賛されるAustenの技法が完成されていった過程を研究した。

論文の目的は、代表作のみならず代表作を生み出すに至った未完小説や断片をもすべて検証し、その上でAustenの小説の確立と変遷と発展を一直線上に捉えて提示し、Austenの技法が完成された過程を追究することであった。

論文は全二十章からなり、第一章から第十章までは作品毎にテーマを定めて考察し、第十一章から第十六章までは全作品を鳥瞰しつつ、さらにテーマを拡大して作品と対峙し、第十七章から第二十章は英国に赴きAustenの足跡を辿って得た資料と着想を基にAusten文学の成立の過程を追った。

論文のタイトルを「ジェイン・オースティン—風刺作家としてのモラリスト」としたのは下記のような理由からである。王政復古期の喜劇の‘Comedy of manners’をHenry Fieldingが小説という文学形式に当てはめて‘Novel of manners’を確立しAustenがこれを継承したが、批評家のWalter AllenがFieldingとAustenを二人まとめて‘the moralist as satirist’と呼び、さらにAustenを“*She was the last and finest flower of that century at it quintessential.*”と絶賛したことに端を発し、何故AllenがそこまでAustenを高く評価したのか、その根拠を探り解明することが論文作成の目的であったからである。

その結果、Austenは風刺的な視点で小説を書く喜劇作家であると同時にモラリストであること、この場合、モラリストとは仏語に由来する人間性の探求者のことであるが、その小説技術は世界的に随一であることが判明した。



## 華南師範大学(中国)の日本学研究フォーラムで神戸女子大学教員が学術講演を行う

2019年3月29日(金) 華南師範大学外国言語文化学院主催、中央大学政策文化総合研究所共催で「日本学研究フォーラム」が開催され、神戸女子大学から文学部日本語日本文学科の永淵 朋枝教授と岡墻 裕剛准教授が学術講演を行いました。

この研究フォーラムには、中国各地の大学の著名な日本研究者が参加しました。

永淵教授は、メディアの勢力によって方向づけられていった日本近代文学の一面について講演し、岡墻准教授は漢字廃止論や日常で使う漢字の数はどの程度が妥当かといった、明治時代のさまざまな基本漢字文献について講演しました。

華南師範大学は中国でも有数の教育系の大学で、本学とは2000年に国際交流協定を締結し、同大学からの留学生を受け入れるとともに、本学の学生も留学するなど、多年にわたって交流を重ねて来ました。二人の教員は、中国訪問中に本学への留学経験がある華南師範大学の卒業生たちの同窓会に招かれ、旧交を温めました。



学術講演中の永淵朋枝教授と岡墻裕剛准教授



### 講演題目

永淵 朋枝教授

「日本近代文学におけるメディアの勢力—女性無名作家の軌跡から—」

岡墻 裕剛准教授

「近代日本における基本漢字文献の成立と発展」

### 参加大学一覧

日本	中央大学	神戸女子大学
中国	中山大学	広東外語外貿大学
	吉林大学	華中師範大学
	厦門大学	華南師範大学

## カリフォルニア州立ポリテクニク大学附属英語学校の所長が来学



デボラ・ディツェル氏の授業の様子

2019年4月10日(水) 国際交流協定を締結しているカリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校附属英語学校・Cal Poly English Language Institute (以下CPELI) の所長デボラ・ディツェル氏が、神戸女子大学須磨キャンパスに来学。栗原 伸公学長を表敬訪問後、文学部国際教養学科の「国際関係論」の授業や3年生ゼミ「グローバル・ローカル専門演習Ⅰ」の受講生約30名を対象に、CPELIの説明と人間が生まれてから言語を習得する過程と脳との関係について興味深い講義を行いました。

学生たちは、海外研修が行われるCPELIの様子もわかり、人間が生まれてから言語を習得していく過程を知ることによって外国語の習得方法のヒントを得られ今後の英語学習の励みになりました。

## 留学生歓迎会 第一期 静宜大学(台湾)の交換留学生も迎えて

2019年4月神戸女子大学は文学部国際教養学科に静宜大学(台湾)から初めてとなる2名の交換留学生を含め4名の交換留学生と1名の短期研修生を迎えました。

華南師範大学からは2000年から毎年2名の交換留学生を受け入れ、2015年からはセント大学(イギリス)の学生の短期受け入れプログラムを開始し、今年度も1名の研修生が来日しました。

4月11日(木)に須磨キャンパス図書館のライブラリー・コモンズで教職員と学生に加え前年9月から留学をしているウダヤナ大学(インドネシア)の留学生も参加し歓迎会が行われました。



留学生歓迎会終了後の記念撮影



神戸女子大学と神戸女子短期大学 コラボで地域貢献  
「いつまでもおいしく食べよう - 介護食の作り方 -」講座開催

平成31年2月23日（土）神戸女子大学健康福祉学部 社会福祉学科と神戸女子短期大学 食物栄養学科の共催によりいつまでもおいしく食べるための工夫を学ぶ講座をポートアイランドキャンパスで開催しました。

この講座は、加齢や病気などで「噛む」「飲み込む」などの咀嚼・嚥下機能の衰えた人がいつまでもおいしく食事ができ、食事中に思わぬ事故にあわないようにするために日頃からの対応や介護方法を学びたいという市民の皆さんを対象にした公開講座です。当日は13名の参加がありました。

最初に社会福祉学科の木村 あい准教授が加齢に伴う咀嚼・嚥下機能の低下・障害について解説し、食事の姿勢と食事介護の基本的な技術について講義しました。



木村あい准教授の講義の様子

続いて食物栄養学科の竹内 美貴助教が、誤嚥を防ぐために嚥下しやすい食材や調理方法について解説し、普通食を食べやすくアレンジした介護食の実演を行いました。

最後に短期大学の学生が作った介護食に加え市販の介護食の試食の時間があり、受講者の皆さんは、普段の食事と見た目も味も変わらない食事を味わいました。

毎日作ることは無理でも特別な日やお祝いの日には、介護食を作って家族と同じものを食べてだんらんを楽しみたいと熱心にメモを取る受講者の姿が見られました。介護についての悩み

を教員に相談してアドバイスを受けることもでき、この講座を継続して続けてほしいという要望が寄せられました。

大学の社会福祉学科と短期大学の食物栄養学科の教員と学生がそれぞれの専門性を生かして協力することで幅広い地域貢献活動が可能となり、知識や技術を学びあう機会にもなりました。



竹内美貴助教の講義の様子



介護食の実演をする竹内美貴助教



木村あい准教授（前列左）と竹内美貴助教、講座を支えた食物栄養学科の学生（緑色のエプロン）と受付や案内を担当した社会福祉学科の学生



介護食を調理する食物栄養学科の学生



料理の温めや試食の配膳には、社会福祉学科の学生も協力



試食用の介護食

（食物栄養学科の学生調理メニュー）

- ・フィッシュムニエル
- ・粉ふきいも
- ・インゲンソテー
- ・コンソメジュリエーヌ

・介護食用のやわらかいリンゴ（市販品）  
・リンゴのコンポート

※この公開講座はポアイ4大学による連携事業「ポアイ健康推進プロジェクト」の一環として実施



## 神戸女子短期大学 ウエディングドレスショー

平成31年1月15日(火)にポートアイランドキャンパスにおいて、神戸女子短期大学 総合生活学科の古田 貴美子講師が担当する被服製作ゼミの学生7名による「ウエディングドレスショー」を開催しました。

被服製作ゼミでは一年かけて学生それぞれがデザインを考案、生地選びから縫製まで行い、ウエディングドレスを作り上げます。その集大成としてウエディングドレスショーを行っています。

ショーでは6名の男性教員が学生をエスコートしました。学生たちは、一人ひとりの思いの詰まった優雅なドレスを身に纏って登場し集まった多くの学生や教職員に披露しました。見学に来ていた学生たちからは「とてもきれい」「かわいい」という声があちらこちらからあがっていました。これらのドレスは制作展「ブルーム展」にて展示されました。

古田貴美子講師(右)と佃井紀子助手(左)とウエディングドレスショーを行ったゼミ生



## 神戸女子短期大学 造形表現活動の楽しさを作品に 第21回ブルーム展

平成31年1月26日(土)から31日(木)まで、神戸市中央区の神戸トアギャラリーにて「第21回ブルーム展」を開催しました。

この作品展は、神戸女子短期大学の全学科(総合生活学科・食物栄養学科・幼児教育学科)の学生が、授業で制作したさまざまな作品を展示する制作展です。学生にとっても、普段は見る機会が少ない他学科の作品を一斉に鑑賞することができるので、いろいろな発見があり、お互いに感性が刺激されあうなど好評の展示会です。第21回は約200点の作品を展示しました。

幼児教育学科では子どもの造形表現活動の支援に必要な実践力を身につけるために、学生自身が描くこと、作ること、鑑賞することを通して、造形表現活動の楽しさを感じながら制作に取り組みました。みずみずしい感性と学びの成果が発揮され個性的な作品が生まれました。来場された皆さんからの作品へのお褒めの言葉や感想は、学生にとって大きな励みになっています。



「自分を見つめて表現する」等身大に型どりの自分自身を独自の手法で表現



マナーの啓発ポスターと絵本



自分が住みたい家を設計



幼児教育学科1年生がキャンパス内で気に入った場所をこすり出し、絵の具のはじき絵に仕上げた作品を立体的に展示



## 管理栄養士養成課程の学生が親子で楽しく調理できるレシピ集を作成協力

平成30年6月から10ヶ月間にわたり神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程の安田 敬子准教授の4年生のゼミ生8名は「神戸食サポート協議会」が主催する「農・食体験ツアー」に協力。野菜の定植、圃場（ほじょう）の手入れ、親子で参加する料理教室の献立を作成し調理のサポートをしました。この料理教室の献立は「楽農レストラン育みの里 かねでかねで」で提供され、好評であったことから、同協議会は兵庫県産の野菜を使ったレシピ集を作成することになり、引き続き安田ゼミに協力の依頼がありました。4年生のゼミ生全員が取り組み卒業する直前に「ひょうご・神戸の食のご縁 親子で楽しくアレンジ 管理栄養士の食育レシピ」が完成しました。

レシピ集は親子で調理ができるように手順が簡単で、兵庫県で採れる野菜を使った48品を掲載。学生一人ひとりが8種類のレシピを考え、64種の中から選んだお薦めのレシピです。

天然のだし（昆布・鰹節）を使い、減塩で薄味の「春菊の胡麻和え」、捨てられがちな栄養たっぷりの大根の葉を使った「大根の葉チャーハン」など、野菜が豊富に摂取でき生活習慣病予防にもつながる動物性脂肪を抑えたレシピもたくさん掲載されています。レシピ集に掲載された料理は全部、自分たちが調理したものです。

ゼミ生たちは協力して、レシピ集の「ひょうご・神戸の旬野菜」のコーナーの野菜の選び方、保存方法、栄養についての知識のまとめ、美味しく健康に食べる1ポイントのコラム及び「栄養バランスについて」のページを執筆しました。



「ひょうご・神戸の食のご縁  
親子で楽しくアレンジ 管理栄養士の食育レシピ」

\*このレシピ集は平成31年4月25日までに希望者にNPO法人ひと・コネクト兵庫から無料で配付されました

幼児は成長する過程で食材の味を覚えていきます。このレシピ集が親子で楽しくクッキングをすることに役立ち、野菜をおいしいと感じ、減塩、薄味の料理を習慣づけていただく一助になることをゼミ生たちは願っています。

学位記授与式の日安田敬子准教授(左)からレシピ集を手渡されよるこびのゼミ生たち



掲載写真の料理はゼミ生が調理し食器も準備



平成30年10月に実施された料理教室の様子